



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 60 号

2009.1.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ごあいさつ
- 『苅尾 17 号』の原稿を募集
- 第 8 回全国草原サミット・シンポジウムを開催

活動報告

- 千町原の草刈り
- 巣箱・かんじき作り
- 野鳥の観察

観察会案内

- 冬を生きる動物たちの生態
- 雪原のトレッキング
- 全国草原サミット・シンポジウム

お し ら せ

● ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。昨年は高原の自然館・西中国山地自然史研究会の活動にご協力いただきありがとうございます。2009 年にも様々な事業が予定されています。引き続き、よろしくおねがいいたします。

● 『苅尾 17 号』の原稿を募集

西中国山地自然史研究会の会報『苅尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600 字程度にまとめてください。今回は草原の特集を組む予定です。雲月山や千町原など、草原にまつわる記事があれば、ぜひご投稿ください。写真を大歓迎します。あなたのみつけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

● 第 8 回全国草原サミット・シンポジウムを開催

草原の恩恵を享受しながら、草原が支えてきた多様な生物や地域の文化を後世に残していくために、問題を共有し、保全と活用の道を探る「第 8 回全国草原サミット・シンポジウム」が 2009 年 9 月 26 日～28 日に北広島町で開催されます。詳しいスケジュールなどは下記の HP でご確認ください。

全国草原再生ネットワーク <http://sogen-net.jp/>

観 察 会 報 告

● 千町原の草刈り

開催日時：2008年11月23日(日) 8:30

11月18日に八幡で初雪が観測され、積雪も10cmほどあったため、草刈り当日まで開催が危ぶまれましたが、当日までには雪も溶け、お天気にも恵まれました。早朝の集合にもかかわらず、86名のボランティアのみなさんが、元気に集まってくださいました。最初に手順の説明やあいさつがあり、実行委員会からはけがのないよう作業をするようお話がありました。千町原に移動し、2班に分かれ作業開始です。今回の主な作業は、来春に火を入れる場所の火道作りと苅尾登山口付近の樹木の伐採です。機械で木や草を刈り取ったあと、手作業で運び出すと、とても広い火道ができあがりました。思った以上に早いペースで、作業が進んだようです。

お楽しみの昼食は山麓庵でいただきました。八幡民宿組合のみなさんが、前日より準備をしてくださりました。千町原の草刈りで刈り取った草を堆肥にして、低農薬で作ったはらっぱ米、千町原の伐採で出たハンノキを使って作ったナメコと地元の野菜をふんだんに使った豚汁、おなじみはらっぱ大根の煮付け・・・と、この草刈り作業当日でしか食べることができないメニューを、おなかいっぱいいただきました。

一方、去年に引き続きキッズプログラムも実行されました。8名の子どもたちが落ち葉を集めながら、自然館から千町原まで歩いたり、シートにススキを詰めて草のお布団を作ったりして、その後オリジナルのはらっぱ一紙芝居を読んでもらいました。子どもたちは、走ったり、跳んだり、おしゃべりしたりと草原の魅力を肌で感じながら、楽しく活動していました。

お昼からも作業を続け、15時には終了しました。最後に参加者全員で記念撮影をして、すべての作業が終了しました。山麓庵へ戻ると、あったかい餅入りぜんざいが待っていました。今回の感想や次回にむけての話をしながら食べるぜんざいは格別の味でした。事故やケがなく作業を進めることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。参加者のみなさん、本当にありがとうございました。これからも千町原の風景

や、生き物にとって貴重な生息環境を守ってゆきましよう。また、当日写真を撮ってくださった荒木カメラマン、はらっぱ米を提供下さった坂井さん、テントなどの物品を貸して下さったカキツバタの里づくりのみなさん、昼食や飲み物、ぜんざいの準備をしてくださった八幡民宿組合のみなさん、御協力ありがとうございました。[このやよい]



八幡地区長の前さんより、あいさつ。



木を切る人、草を集める人、運び出す人とうまく分担して作業が行われていた。



この場所は笹が多かった。



みんなで食べるごはんは箸がすすむ、すすむ。



今回の場所は木が多かったため、チェーンソー隊が大活躍！



今回のキッズプログラムの成果を発表。全員で製作したモーリーの披露。



民宿組合のみなさんによる、あたたかいおもてなし。

当日の参加が難しいということで、越岡真喜子さんには飲み物やアメの差し入れを、益田市の大坪剛三さんには「資金の一部に」と志をいただきました。みなさんにご紹介するとともに、お礼申し上げます。ありがとうございました。

観 察 会 報 告

● 巣箱・かんじき作り

開催日時：2008年12月6日(土) 9:30

講師：暮町昌保、坂井健作

観察会当日の朝、八幡の積雪量は22cmという、かんじき作りにはぴったり(?)のお天気の中、11名の参加者のみなさんが集まりました。

まずは坂井先生に教えていただくかんじき作りからです。あらかじめ先生が用意して下さったミヤマガマズミを曲げて作った輪をそれぞれ手にし、8mに切ったロープを巻いていきます。何度も先生の手元をみながら進めていくのですが、慣れるまで、といては巻き・・・を繰り返しました。雪の中で少しでも歩きやすくするため、かんじきには様々な工夫が凝らされていることも分かりました。坂井先生の「作る過程の全部に意味がある」という言葉がとても印象的でした。四苦八苦しながら自分の手で作り上げたかんじきは、少々いびつな巻き跡もありましたが、使うほどに愛着がわくだろうな、と感じました。また、自分で作り上げると言うことは、メンテナンスも自分でできるという利点もあることがわかりました。昔から受け継がれている文化を大切にしたいね、という声も参加者よりあがりました。

続いて、暮町先生に教えていただく小鳥の巣箱作りは、3名の方が熱心に製作されました。木を切り出し、組み立てていく作業は、普段木工をされない参加者にとっては、少々むずかしそうではありましたが楽しんで取り組まれました。今から巣箱をかけておくとヤマガラやシジュウカラが冬の間に利用し、春からは子育てにも使うだろうとのことでした。これも冬の楽しみのひとつになりそうです。観察会が終わる頃にもまだ雪は降っていました。これから冬本番になりますが、冬ならではの自然観察や楽しみ方を改めて感じた観察会となりました。[このやよい]



今日の講師、坂井先生と暮町先生のあいさつから始まった。



片足で8メートル使用するロープを計測し、切る。



長いひもにてこずっています。



だいぶ形になってきた！



だいぶ形になってきた！



単純なようでむずかしい作業に、いつしか無言になって・・・



巣箱の要、巣穴をあける作業。機械を使えばあっという間だ。



こちらは巣箱の製作。まずは板を切ることから。

【みなさんの印象に残った物】

「わかん作り」「カンジキのロープワーク」「私でもかんじきが手作り出来た事」「かんじきの行程の一つ一つに意味があるということが一番印象物深かったです」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「もの作りの楽しさを体験しました」「ロープワークが色々おもしろかった」「むずかしかった。」「雪の中を広島市内から来れたこと、楽しく出来たこと、クロモジのお茶がおいしかったです」「自分で何かをつくるのはとても楽しいし、それをみんなでわいわいするのはもっと楽しいと思いました」

観 察 会 報 告

● 野鳥の観察

開催日時：2008年12月7日（日）9:30

講師：上野吉雄

積雪はあるものの晴天に恵まれ、寒さもなんのそので熱心な10名で観察会の始まりです。下見済みの先生についてまずは千町原を通ると、途中キレンジャクを見ることができました。今年の群れは少数グループだそうです。大陸などのえさの状況で越冬数は変わるそうです。それからノスリ。冬鳥で単独行動縄張りを持つので八幡では数羽であろうということでした。八幡では開けたところでネズミを捕食しているのだそうです。今年は霧ヶ谷湿原自然再生地でも見ることができるそうです。集落付近ではハシボソガラス・ハシブトガラス・キジバトが見られ、カラマツの幹でコゲラがちょこちょこしていました。混群でシジュウカラもいました。滝平の公道からはここでもノスリを見ることが出来、ツグミも群れでツルウメモドキを食べていました。ホオジロやヤマガラがチカラシバの実をついばんでいる所を見ることができ、足跡や羽跡が残る雪上の状況を確認することができました。ハタネズミのはい出した穴や足跡も積雪ならではの観察です。先生も4・5年ぶりに見たというコチョウゲンボウも確認し、ここではその他にオオカワラヒワ・アカゲラ・モズ♂・エナガ・ジョウビタキ♀・ハヤブサ・セグロセキレイも観察することができました。霧ヶ谷湿原に移動してここではオオマシコを見ることができました。雪の中でもたくさんの鳥に出会えて、その他キツネ・タヌキ・イタチ・ウサギの足跡も確認でき、とても楽しく嬉しい気持ちで観察会を終えました。[やなぎざきのかこ]



千町原ではキレンジャクを観察。



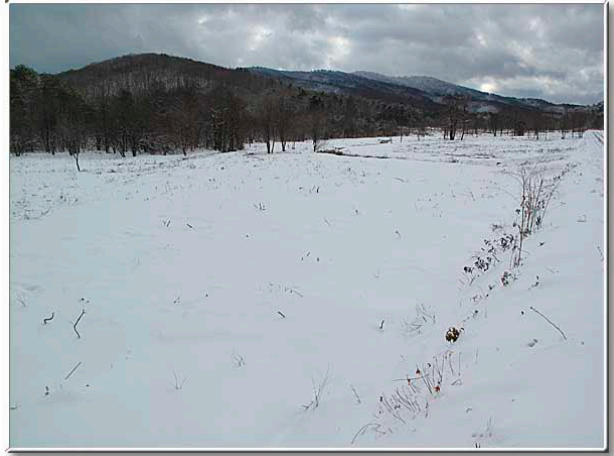
ヒレンジャクとの違いを図鑑で確認。



カンボクの赤い実も氷に包まれていた。



陽が射すと、苧尾の峰が輝いていた。



再生事業が進む霧ヶ谷湿原。



ワシやタカよりも、インコに近縁というハヤブサ。



高原の自然館に戻り、観察した生き物を復習した。



静かにオオマシコを観察。

【みなさんの印象に残った物】

「枝が一年で伸びた量を推測できたこと」「サクラの仲間も葉柄内芽があるのか、印象に残りました」「初めての参加ですが 又参加したい」「いろいろな木をやってよかったです。」「冬芽の見方を違いをあげて説明して下さった。」「大変お天気がよく紅葉もきれいで一日楽しく過ごしました」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「きれいな黄（紅）葉とクマのフンの多いのにびっくり」「人数も適当で質問も充分させていただきました」「先生のせつめいが、とてもわかりやすかったです。」「先生によく説明していただき良かったです」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬を生きる動物たちの生態

開催日時：2009年1月18日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、かんじき(レンタルもあります。¥200)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

雪で覆われた草原を歩き、動物たちの生態を観察します。雪の上には足跡や、フン、植物の食痕など動物たちが生活しているサインがたくさんあります。雪が多い場合は、スノーシューやかんじきを履いて歩きましょう。

● 雪原のトレッキング

開催日時：2009年2月21日(土) 10:00
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、かんじき(レンタルもあります。¥200)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

今年の積雪量はどうでしょうか？雪の深い時期にしか歩けない場所を歩いたり、いつもと違う草原の景色を楽しみませんか？かりおの樹氷も見られるかもしれません。雪が多い場合は、スキーやスノーシュー、かんじきなど準備くださいね。

● 雪原のトレッキング

開催日時：2009年3月8日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、かんじき(レンタルもあります¥200)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

3月といえど、八幡湿原は冬まったでなかです。雪もまだまだ残っていることでしょう。しかし、雪の中ではいきものや植物は春の準備をしています。冬と春のきざしを見られる楽しいトレッキングです。

● 第8回全国草原サミット・シンポジウム

開催日時：2009年9月26日(土)
～9月28日(月)

草原は火入れ、放牧、採草など、人の営みによってはぐくまれ、日本各地にふるさとの原風景と呼べるすばらしい景観を作り出しました。しかし、高度経済成長とともに利用されなくなり、今、全国的に失われようとしています。草原の恩恵を享受しながら、草原が支えてきた多様な生物や地域の文化を後世に残していくために、問題を共有し、保全と活用の道を探る「第8回全国草原サミット・シンポジウム」が2009年9月26日～28日に北広島町で開催されます。詳しいスケジュールなどは下記のHPでご確認ください。

<http://sogen-net.jp/>

編集後記：新しい年が、またはじまります。いつもこの時期に人間ドックの検診を受けるのですが、今年はちょっと憂鬱です(理由は電波塔57号参照)。冬になると、外を出歩くのが億劫になりますが、こんな季節こそ、歩くことを心がけないといけないのかもしれないね。「冬ならでは」の観察会もあります。寒～い八幡を一緒に体感してみませんか？

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info